

平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年 3月26日

報告者	学科名	看護学科	職名	准教授	氏名	岡崎 愉加
研究課題	思春期男子の性に関する健康支援—悩み解消に向けた性教育プログラムの開発と評価—					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	岡崎愉加	保健福祉学部看護学科・准教授	助産学・母性看護学	研究計画、データ収集と分析、性教育プログラム開発と実施、成果発表等	
	分担者	川下菜穂子	保健福祉学部看護学科・助教	助産学・母性看護学	文献収集、データ収集と分析、性教育プログラムの実施等	
研究実績の概要	<p>【目的】 本研究は、①男子大学生が「中学・高校生までに経験した性の悩みと知りたかった性の知識」を明らかにすること、②明らかになった「中学・高校生までに経験した性の悩みと知りたかった性の知識」を内容に入れた性教育プログラムを開発し、高校で実施・評価し、効果的な男子への性教育についての示唆を得ることを目的とする。</p> <p>【方法】 ①平成30年6～7月、A大学の男子学生446人に無記名自記式質問紙調査を実施した。回収364人中、有効回答320人を分析対象とした。</p> <p>②男子大学生への調査結果をもとに、性教育実施高校の養護教諭や性教育実施協力者（助産師学生）の意見を聞きながら、性教育プログラムを開発し、平成30年9月に高校の文化祭を利用して実施した。内容は、好きな人とのつき合い方、男子の性に関する悩みについて、また、女子を理解するために女子の性に関する悩みについても取り上げた。実施はポスターを使用し、クイズを入れながら生徒との対話を重視した。性教育プログラムへの参加者を対象に無記名自記式質問紙調査を実施し、有効回答42人を分析対象とした。</p> <p>なお、本研究は岡山県立大学倫理委員会の承認後に実施した（受付番号：①18-13、②18-31）。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>【結果】</p> <p>①対象者の平均年齢は19.8±1.2歳であった。中学・高校生の時に気になっていたことや悩みは「男性器（大きさ・包茎等）」19.4%、「性欲のコントロール」14.1%、「性行為（責任・方法等）」13.4%、「好きな人とのつき合い方」12.5%、「マスターベーション」12.2%であった。知りたかった性の知識は「性行為」と「好きな人とのつき合い方」が同率31.3%、「性感染症」23.8%、「性欲のコントロール」21.6%、「男性器」と「女子の心と体について」が同率20.9%、「コンドームの使い方」20.6%であった。</p> <p>②対象者の平均年齢は16.1±0.9歳であった。性教育プログラムに参加して、「悩みや疑問が解決した」は64.3%、「どちらかと言えば解決した」35.7%、「どちらかと言えば解決しなかった」と「解決しなかった」は0%であった。「今まで知らなかったことを知ることができた」は81%、「どちらかと言えばできた」14.3%、「どちらかと言えばできなかった」4.8%、「できなかった」0%であった。「満足した」は81%、「どちらかと言えば満足」19%、「どちらかと言えば不満足」と「不満足」は0%であった。良かった内容は「好きな人とのつき合い方」81%、「包茎について」28.6%、「性欲のコントロール(マスターベーション)」23.8%、「女子の心と体の仕組み(月経)」11.9%の順であった。今後知りたい内容は「好きな人とのつき合い方」と「性暴力(デートDV等)」が同率で21.4%、次いで「男性器(大きさ・形・包茎等)」19%であった。性に関する悩みや疑問を相談できる人として最も多かったのは「友人(先輩・後輩も含む)」で61.9%、次いで「親(祖父母を含む)」19%、「誰もいないが自分で調べる」14.3%であった。</p>
---------------------	--